

- | | | |
|-----|--|--|
| 問1 | 地租改正の際、土地の所有者に発行され、所有権を証明するために使われた書類を何という？ | |
| 問2 | 1871年、明治政府が近代制度を学ぶために欧米へ派遣した使節団を何という？ | |
| 問3 | 明治政府が、欧米列強の植民地化を防ぎ、独立を維持するために掲げた国家政策を何という？ | |
| 問4 | 「天は人の上に人を造らず」という一節で始まる、福沢諭吉が執筆した啓蒙書を何という？ | |
| 問5 | 新政府軍と旧幕府軍が激突した、明治維新の戦いの発端となる年は何年？ | |
| 問6 | 明治政府の徴兵制において、兵役の義務の対象となった男子の年齢は満何歳？ | |
| 問7 | 明治天皇が神々に誓う形で示し、政治の基本方針とした文書を何という？ | |
| 問8 | 明治新政府が旧幕府軍との戦いに勝利し、全国を統一した一連の内戦を何という？ | |
| 問9 | 19世紀後半、欧米列強がアジアに進出する中で、日本が維持しようとした国家の状態を何という？ | |
| 問10 | 近代的な工場や産業の現場で、専門的な技能を用いて生産や開発を指導した人を何という？ | |
| 問11 | 明治政府が国家の統一を図るため、地方の権限を政府の中心に集中させた体制を何という？ | |
| 問12 | 明治政府が国力を高め、軍事力を強化して列強に並ぼうとした国家方針を何という？ | |
| 問13 | 戊辰戦争の終盤に、五稜郭を拠点として新政府軍に最後まで抗戦した幕府側の軍隊を何という？ | |
| 問14 | 明治政府が近代化のために進めた、産業を興して生産力を高めようとする政策を何という？ | |
| 問15 | 明治天皇が神に誓う形式で「五箇条の御誓文」を発表した年は何年？ | |
| 問16 | 1867年に江戸幕府が朝廷へ政権を返上し、天皇中心の政治に戻ることを宣言した出来事を何という？ | |
| 問17 | 明治政府が中央集権化を進めるため、全国の藩主に命じて土地と人民を天皇へ返還させた制度を何という？ | |
| 問18 | 明治政府において、初代の内務大臣にあたる官職に就き、殖産興業を推進した役職を何という？ | |
| 問19 | 明治初期、全権大使として欧米へ渡り、帰国後は国内の近代化を優先する政策を進めた人物は誰？ | |
| 問20 | 五箇条の御誓文で掲げられた、広く会議を起こして多数決で政治を決めることを表す言葉は？ | |

答え合わせ・解説

問1	答え 地券	1873年の地租改正で、政府は土地所有者に地券を交付しました。これに基づき、地価の3%を現金で納税する仕組みとなりました。この制度は、税収を予測可能にする画期的なものでした。
問2	答え 岩倉使節団	1871年、岩倉具視を全権大使とし、大久保利通や伊藤博文らが参加しました。一行はアメリカを経てヨーロッパ各国を回り、工場や議会、教育制度などを視察しました。日本が近代化するために必要な多くの知識を持ち帰りました。
問3	答え 富国強兵	富国強兵は、近代的な産業を育てて税収を増やし、強力な軍隊を持つという政策です。この方針に基づき、地租改正による財源確保や、官営模範工場の設立、徴兵制の実施などが強力に推進されました。
問4	答え 学問のすゝめ	『学問のすゝめ』は、福沢諭吉が人々に平等と学問の重要性を説くために著した書物です。「天は人の上に人を造らず」という言葉で有名で、人間は生まれながらに平等であり、自らの知性を磨くことで独立した個人となるべきだと説きました。
問5	答え 1868年	1868年、京都近郊の鳥羽・伏見において、新政府軍と旧幕府軍が激突しました。この戦いをきっかけに、日本各地を巻き込む戊辰戦争が本格化しました。当時の近代兵器を備えた新政府軍の勝利により、武力による政治の主導権が新政府側に確定しました。
問6	答え 20歳	1873年の徴兵令により、満20歳になった男子に対して兵役の義務が課されました。これにより、それまでの武士の特権であった軍事活動が国民全体に広がられました。
問7	答え 五箇条の御誓文	1868年に発表された「五箇条の御誓文」は、新しい国家建設の理念を明文化したものです。「広く会議を興し、万機公論に決すべし」という一節は、広く意見を募り、合議によって政治を決定するという民主的な方向性を示した画期的な内容でした。
問8	答え 戊辰戦争	1868年の鳥羽・伏見の戦いから始まり、東北地方、最後は北海道の箱館まで続いた内戦を指します。近代的な軍制を整えた新政府軍が、旧幕府の残存勢力を次々と制圧しました。この戦いを通じて、日本は武家による封建制から、天皇を頂点とする近代的な統一国家へと大きく舵を切ることになりました。
問9	答え 独立	明治政府にとって最大の目標は、国家の独立を守り、欧米諸国と対等な立場に立つことでした。そのために、政治、経済、軍事のすべてにおいて近代化を急ぎ、西洋の新しい知識や技術を積極的に取り入れました。
問10	答え 技術者	彼ら技術者は、官営模範工場などで日本の作業員に最新の機械操作や設計技術を教えました。理論だけでなく、実地での教育を行うことで、日本における工業化の基礎を築く役割を果たしました。
問11	答え 中央	中央集権とは、政府の中枢が地方に対しても強力な支配権を持ち、全国一律の制度で統治する体制です。廃藩置県により藩を廃止して県を置いたことで、中央政府が任命した知事が地方を治める形が整いました。
問12	答え 富国強兵	経済発展を目指す「殖産興業」と、強力な軍隊を育成する「富国強兵」をセットで推進しました。これにより、鉄道の整備、官営工場の設立、徴兵制の施行など、多角的な近代化策が実行されました。
問13	答え 旧幕府軍	榎本武揚や土方歳三らが率いる彼らは、最新の兵器を備え、西洋式の城郭である五稜郭に立てこもって激しく戦いました。しかし、物量に勝る新政府軍に包囲され、力尽きて降伏しました。
問14	答え 殖産興業	政府は最新の機械や技術を輸入し、官営模範工場を建設するなどしてモデルとなる産業を育成しました。また、交通網としての鉄道や電信の整備も積極的に行い、民間企業の成長を後押ししました。
問15	答え 1868年	1868年、明治天皇が神々に誓う形式で「五箇条の御誓文」が発表されました。ここには、身分を問わず広く会議を興すこと、知識を世界に求めることなど、新しい近代国家の目指すべき姿勢が示されています。
問16	答え 王政復古の大号令	1867年12月9日、京都御所において「王政復古の大号令」が出されました。これにより、徳川將軍家の権限が完全に廃止され、天皇のもとに天皇・摂政・関白などを廃した新しい政府が置かれることが宣言されました。
問17	答え 版籍奉還	明治政府は中央集権体制を確立するため、1869年に藩主から土地（版）と人民（籍）を天皇に返還させました。これにより、名目上は全ての土地と人民が天皇のものとなりました。旧藩主は政府から知事に任命されましたが、実権は次第に中央へと移行していきます。
問18	答え 内務卿	1873年に設置された内務省の長官を内務卿と呼びます。初代の内務卿には大久保利通が就任し、殖産興業政策を強力に推進しました。このポストは後の内閣制度における内務大臣へと引き継がれました。
問19	答え 岩倉具視	1871年に岩倉具視を全権大使とする使節団が派遣されました。帰国後の岩倉は、海外渡航で痛感した日本の遅れを挽回するため、性急な対外拡大を控え、国内の近代化と富国強兵を優先する方針を確立しました。
問20	答え 公論	「公論」とは、五箇条の御誓文の第一条にある「広く会議を興し、万機公論に決すべし」という言葉に含まれる概念です。これは、特定の支配層だけで物事を決めるのではなく、広く会議を開き、多くの人々の意見を聞いて議論を通じて結論を出すという、近代的な民主主義の芽生えを示す方針です。